

原ゆうじ市政報告 VOL.73

TEL:070-5540-9565 メールアドレス yuji.hara88@gmail.com

ブログも好評配信中！ 公式 HP:hara88.mobi 発行元:松戸市上本郷905



(原ゆうじのプロフィール)
1965 年松戸生まれ 上本郷小、六
中、立教高校、立教大学理学部化学
科卒。長瀬産業(商社)勤務を経て
現在、ペーカリー店経営
H22 年市議初当選、現在 3 期目

松戸市議会議員原ゆうじ市政レポート税金の無駄遣いは許さない！ 3年春号

なぜ？ごみ焼却炉建設先送りへ！ 市外へ委託処理延長＝費用増大

ごみ焼却処理を他市へ委託！ 年間7.2億円もの費用が発生！これでいいのか！

市は令和 3 年度予算で予定されていたごみ新焼却炉建設のための予算計上を見送ると同時に、老朽化した和名ヶ谷クリーンセンターの稼働と市外への可燃ごみ処理委託をそれぞれ最長 5 年間延長する方針が示されました。重要なごみ処理を他市へ依存。これでいいのか松戸市！詳しく報告します！

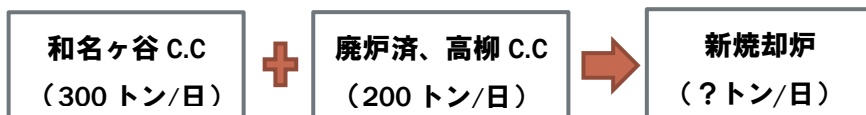
2つの焼却炉を1つへ！和名ヶ谷は9年後稼働停止！高柳に集約&建設が既定路線！

これまで松戸市は、可燃ごみの焼却処理を高柳クリーンセンターと和名ヶ谷クリーンセンターの2施設で行ってきましたが、老朽化のため高柳の施設を昨年度末で稼働停止しました。

【老朽化が進む和名ヶ谷 C.C】

そしてその高柳に令和 11 年度を目途に焼却炉を大きくして建て替える予定で、その間の 10 年は和名ヶ谷 C.C のみでの処理予定です。

松戸市の焼却処理体制 *注()内は1日当たりの焼却能力



燃やしきれないごみ2万トンを市川と浦安市へ委託！

しかし、和名ヶ谷 C.C だけでは、松戸市のごみ(年 10.5 万トン)は燃やしきれません。そこで、年間約 2 万トンのごみを市川市と浦安市へ新焼却炉

が建設稼働するまでの 10 年間、処理を委託する事にしました。

他市処理に年約 7.1 億円！トン当たり 3.6 万円の費用が！和名ヶ谷 C.C なら 2.4 万円！

さて、この他市委託処理の費用はどうなっているのでしょうか？

市内で収集されたごみは、まず①ごみ中継施設に集められ、圧縮されたのち②市川、浦安市へ搬送され、松戸市がこの両市に③委託料を支払い焼却処理してもらっています。

焼却委託料は市川市 1 トン当たり約 24,000 円、浦安市約 33,000 円ですが、和名ヶ谷クリーンセンターでは 1 トン当たりごみを燃やす経費(ごみ処理原価)は約 24,000 円です。

仮に、市外への年 2 万トンのごみを和名ヶ谷 C.C で焼却すれば、年 4.8 億円で済み、年 2.3 億円は安くなることになります。(他市委託の場合 7.1 億円) - (和名ヶ谷 C.C で焼却の場合 4.8 億円) = 2.3 億円！

なので、10 年間の市外委託では、計約 23 億円もの費用が市内処理に比べ余分にかかることになります。

これは、市外処理では圧縮するための①中継施設費用と②市外への運搬経費が余計にかかってしまうからです。

R2 年度、他市への委託処理費用内訳	計約 7.1 億円
①中継施設運営費用	6,941 万円
②可燃ごみ運搬経費	8,982 万円
③市川市委託料 1.4 万トン分	33,600 万円
③浦安市委託料 0.6 万トン分	21,600 万円



突然の新焼却炉建設 5 年延期！

ごみが燃やせない松戸市？懸念される処理費用の増大！税金の無駄遣いを許すな！

今年 2 月、**松戸市は突然**、議会へ**新焼却炉建設の最長 5 年延期を発表**。まさに寝耳に水の発表でした。

新焼却炉建設 5 年延期の理由とは？ 市の説明は？

松戸市は理由として、**ごみ処理の広域化及びごみ処理施設の集約化の検討に時間が必要なこと**を挙げています。これは、国からの通知をもとに千葉県が策定を進めている「第 10 次千葉県廃棄物処理計画」の中で、松戸市を含めた県内自治体に、ごみ処理の広域化・集約化の検討を求めていることによるものです。

焼却施設建設は、費用の約 3 分の 1 を国の補助金で見込んでいますが、「広域化・集約化について、県との協議がその交付条件となっているため、広域化・集約化の検討期間が必要になった」と市は説明しています。

以前より国が求めている集約化広域化の検討！すでに松戸市は実行＆検討済み！？

しかし、こうした広域化・集約化の検討は国が以前より求めており、この通知に対応し、松戸市では、平成 20 年策定の市処理計画で、市内の焼却施設を 3 から 2 施設体制に、さらに平成 28 年には、**2 から 1 処理施設へと集約化する**計画を策定。市は実際にこの計画に沿って、高柳の C.C は 31 年度に稼働停止、現在の和名ヶ谷 C.C も令和 11 年度には稼働停止し、代わりに同年度に高柳に新たな焼却施設を集約化（大型化）して建設し稼働させ、市内から出る可燃ごみの処理を市内で一元化処理することを決めていました。

なので、**すでに松戸市は、国や県の通知に従い広域化集約化の検討は行っていた事**になります。

不可解な松戸市？ なぜ、千葉県へ市方針の説明をしないのか？

すでに計画化された市の集約化方針ですが、「県に対して、市の集約化方針は説明したのか？」の議会質問に対し、「県からの話は聞いたが、市の方針説明はまだ行っていない」との答弁。

なぜ市の立場を説明しなかったのでしょうか？ **なんとも不可解な市の行動**です。

背景に新拠点ゾーン開発？多額の焼却炉建設費は重石？

現在の年間ごみ量、約 10.5 万トン焼却するためには、1 日あたり約 390 トンの焼却能力が必要と試算できますが、これに災害ごみ焼却対応分を加えれば、約 400 トン級の焼却炉が必要と思われます。このための費用は和名ヶ谷 C.C の解体費や、プールなどの付属施設建設費等を含めれば、**400 億円程度**かかると考えられます。

市の大型 3 事業に暗雲？市自ら設定した借金限界値の目安突破は必至に！

以前より市は、借金限界値の目安を、**1,436 億円（一般会計）**と答えていますが、この値を守るためにはあと **230 億円程度**しか借金を増やせません。現在、松戸市は大型 3 事業の内、**新松戸東側区画整理事業**と市役所の移転候補地でもある**新拠点ゾーン開発事業**を先行して行うとしていますが、多額の**新焼却炉建設費用**、約 400 億円が今、明らかになれば、**市設定の借金限界値の目安突破は確実に！**そうなれば、先行する事業にも影響が、このため市は今回、焼却炉建設を先送りしたのではないかと疑念が議会内で湧きあがりました。

新焼却施設建設に関する決議可決！こうした動きに議会側も対応、3 月議会最終日、**議員提出議案**で早期の新焼却施設整備基本構想の取りまとめを求める決議案が出され、採決の結果、賛成多数（反対は市民力・立憲民主党 3 人のみ）で可決されました。行政にとって最重要なごみ処理事業はどうなるのか？要注目です！！

原ゆうじの考え！ 新焼却炉建設の 5 年延期、伴う市外へのごみ処理委託延長はズバリ避けるべきです！主に市川市に焼却処理委託を行っていますが、松戸市よりも早く新焼却炉建設が決定され、すでに入札を行う準備に入っています。市川市からは「委託は新焼却炉が出来るまで」と期間限定での約束となっており、10 年間で、いつ委託打ち切りとなるかはわからない状況です。さらに 5 年の延長を市はどこにお願いをするのでしょうか？**ごみ処理は、絶対に欠かすことのできない行政サービス**ですが、市は延長時の委託先は未定としています。加えて老朽が進む和名ヶ谷 C.C の稼働延長は間違いなく大丈夫なのでしょうか？処理が滞るリスクは避けるべきです。**無駄な経費発生＝税金の無駄遣い**を防ぐためにも、少なくとも広域化・集約化の検討と同時に松戸市は新焼却炉建設検討も行うべきと確信しています。 原ゆうじは今後も強く市へ訴えてまいります！